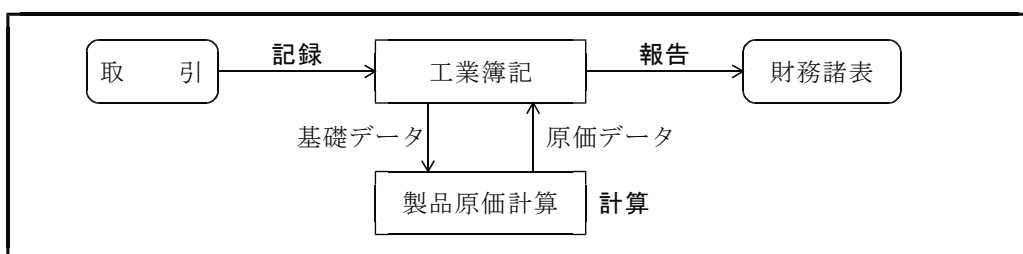


第3節 工業簿記の基礎

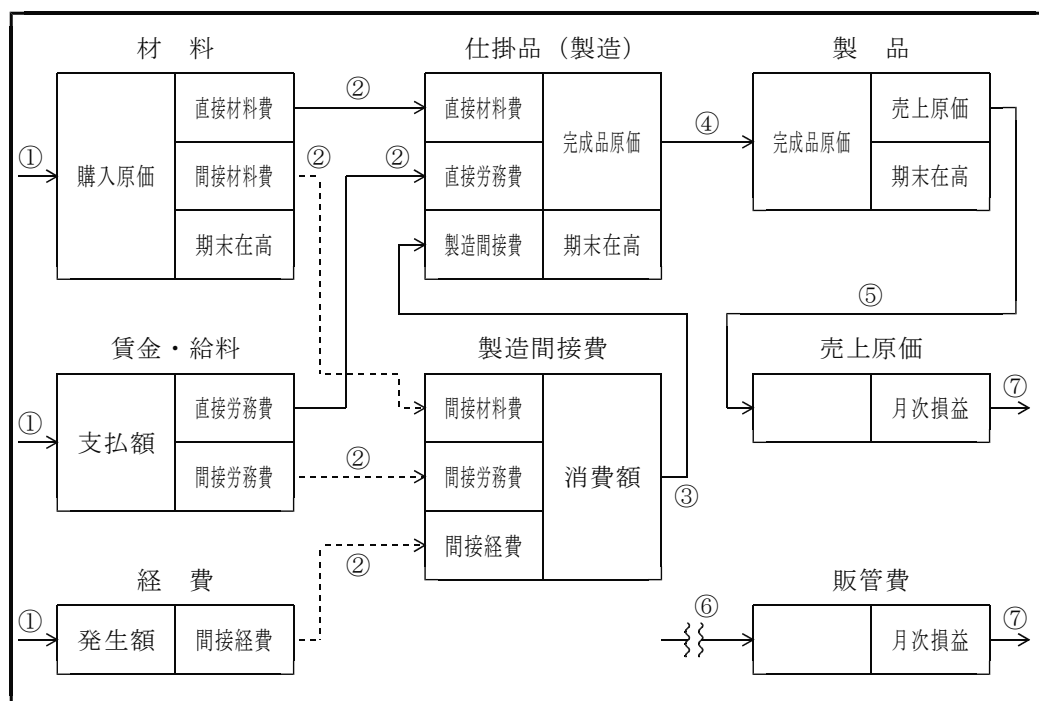
1. 工業簿記と製品原価計算の役割

商業経営（商品売買業）：商業簿記
工業経営（製造業）：工業簿記＋製品原価計算

工業簿記は、工業経営で、製品原価計算とあわせて利用される。その基本的な目的は商業簿記と同じで、取引を記録し、必要な計算を行い、結果を財務諸表で報告することにある。このうち、記録と報告は工業簿記、計算は製品原価計算により行われる。



2. 工業簿記の勘定体系¹⁾



¹⁾ ここに示す勘定連絡図等は一例であり、勘定組織には様々なバリエーションが考えられるため、問題では指示に従うこと。なお、ここでは直接経費がない場合を前提とする。

- ① 資源（材料，労働用役，その他）の購入や支払などを行ったとき，材料a/c¹⁾，賃金・給料a/c，経費a/cの借方に記入する。

(借)	材 料	×××	(貸)	買 掛 金 等	×××
(借)	賃金・給料	×××	(貸)	現 金 等	×××
(借)	経 費	×××	(貸)	現 金 等	×××

- ② 資源を消費したとき，製造直接費となるものは仕掛品a/c²⁾へ，製造間接費となるものは一旦，製造間接費a/cへ振り替える³⁾。

(借)	仕 掛 品	×××	(貸)	材 料	×××
(借)	製造間接費	×××			
(借)	仕 掛 品	×××	(貸)	賃金・給料	×××
(借)	製造間接費	×××			
(借)	製造間接費	×××	(貸)	経 費	×××

- ③ 製造間接費a/cに集計した間接材料費，間接労務費，間接経費は，まとめて仕掛品a/cへ振り替える。

(借)	仕 掛 品	×××	(貸)	製造間接費	×××
-----	-------	-----	-----	-------	-----

- ④ 製品が完成したとき，完成品原価を計算し，仕掛品a/cから製品a/cへ振り替える。

(借)	製 品	×××	(貸)	仕 掛 品	×××
-----	-----	-----	-----	-------	-----

- ⑤ 製品を販売したとき，売上高を計上するとともに，売上原価を計算し，製品a/cから売上原価a/cへ振り替える⁴⁾。

(借)	売 上 原 価	×××	(貸)	製 品	×××
-----	---------	-----	-----	-----	-----

- ⑥ 販売費および一般管理費は，当期分を計算し，販売費および一般管理費a/cに集計する。

(借)	販 管 費	×××	(貸)	諸 口	×××
-----	-------	-----	-----	-----	-----

- ⑦ 原価計算期間は1ヶ月であるため，決算も月次で行う。そこで，当期分の収益および費用を月次損益a/cへ振り替える。

(借)	月 次 損 益	×××	(貸)	売 上 原 価	×××
(借)	月 次 損 益	×××	(貸)	販 管 費	×××

¹⁾ 「a/c」は，「勘定 (account)」という意味で用いている。

²⁾ 仕掛品a/c（または製造a/c）は，製造原価を集計する勘定である。

³⁾ 振替仕訳については，【例題1.2】《参考》振替仕訳を参照のこと。

⁴⁾ 工業簿記では，通常，売上原価は販売の都度，売上原価a/cへ振り替える。